

# JAPAN PRIZE NEWS

財団法人 国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY  
FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒105 東京都港区虎ノ門4丁目3番20号

神谷町森ビル4階

電話 03(3432)5951(代)

ホームページアドレス <http://www.meshnet.or.jp/jstf>

E-Mail [jstf@mx.meshnet.or.jp](mailto:jstf@mx.meshnet.or.jp)



No. 16

1996年5月

## 1996年(第12回)日本国際賞、カオ博士と伊藤博士が受賞 天皇皇后両陛下をお迎えして授賞式



チャールズ・K・カオ博士

1996年(第12回)日本国際賞の授賞式が4月26日(金)、東京・国立劇場において挙行されました。今回の受賞者は「情報、コンピュータ、および通信システム」分野の香港中文大学学長のチャールズ・K・カオ博士(米国籍、62歳)と、「神経科学」分野の理化学研究所国際フロンティア研究システム システム長で、日本学術会議会長の伊藤正男博士(67歳)のお二人です。

日本国際賞は、財団法人 国際科学技術財団(理事長：近藤次郎)が、世界の科学技術者を対象に、科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人々を毎年顕彰するもので、1985年の第1回から数えて今年で12回目の授賞となります。

写真は、受賞のあいさつをされるカオ博士(左写真)と伊藤博士(右写真)。



伊藤 正男博士

## 授賞式

授賞式は、天皇皇后両陛下をお迎えし、三権の長をはじめ、所管大臣、在日外国大使ならびに官界、学界、財界、ジャーナリストなど約900名が出席して行われました。

桐朋学園オーケストラが演奏する「日本国際賞式典序曲—Overture Japan」で開幕となり、近藤次郎財団理事長兼日本国際賞審査委員長の開会の挨拶、審査結果報告および受賞者の紹介、審査委員会各分野部長による贈賞理由の説明に続き、カオ博士、伊藤博士にそれぞれ日本国際賞の賞状、賞牌、および賞金5,000万円が伊藤正己財団会長から贈られました。

受賞後、カオ博士は「光ファイバ通信技術は、情報化時代における社会基盤の一つともいえます。コミュニケーションは人と人の相互理解を深め、更に人類の平和と繁栄を促進させます。初期の段階から研究、開発、そして製造に携わることができて、大変幸せに思っています」とあいさつしました。

また、伊藤博士は「天皇、皇后両陛下のご臨席のもと、日本国際賞を授与される光栄に浴し、一生忘れえぬ感激であります。私が研究者の道に入って40有余年、この間、脳の中にあるのは神経細胞の作る回路網であり、その機能原理を解明することが脳の持つ大きな謎に迫る最短の道程であると信じて研究に励んできました。小脳はそのような目的を実現するのに最も適した脳の部分と思われました。しかし、まだ多くの問題が残されており、今回の受賞を機にさらに研究に励みたいと思います。」とあいさつしました。



天皇皇后両陛下の祝福を受ける両博士

## 祝宴

授賞式終了後、同日夜、東京・ホテルオークラ「平安」の間において天皇皇后両陛下ご臨席のもと、各界代表約250名を招いて、祝宴が開催されました。

伊藤正己財団会長の挨拶で始まった祝宴はディナーのあと、受賞者両博士の栄誉を讃えて天皇陛下より乾杯の御発声を賜り、続いて三権の長を代表して斎藤十郎参議院議長から乾杯のご発声をいただきました。また、日本国際賞のますますの発展と世界の平和



祝宴風景

## 天皇陛下のおことば



この度の日本国際賞の授賞式に当たり、カオ博士が情報、コンピュータ及び通信システム分野において、また、伊藤博士が神経科学分野において、それぞれ受賞されたことを心からお祝いいたします。

カオ博士の御研究は、光ファイバに関するもので、現在広く使われている光通信の開拓に大きく貢献されました。また、伊藤博士の御研究は、運動を調節する小脳の神経機構に関するもので、その成果は脳の学習と記憶機構に関する神経科学の研究に大きな影響を与えました。ここに、両博士の優れた業績に対し、深く敬意を表します。

近年の科学技術の進歩は誠に目覚ましいものであり、その進歩によって人類が享受している恩恵には量り知れないものがあります。私どもは、今日の科学技術が、多くの研究者の英知と忍耐強い努力によって産み出されたということに深く思いを致すとともに、新しい科学技術が、真に人類の幸せにつながるものとして発展するよう見守っていくことが大切であります。その意味において、科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人々を受賞者の対象として設けられた日本国際賞は、極めて意義深いものと思われます。

両博士の御研究が更に発展し、人類の福祉に一層寄与することを願い、授賞式に寄せる言葉といたします。



乾杯のご発声をされる天皇陛下

と繁栄への寄与を祈念して梶山静六内閣官房長官のご発声による乾杯が行われました。続いて在日外交団を代表してサウディ・アラビア王国のショボクシイ大使による祝辞、さらに受賞者両博士の国を代表してモンデール米国大使による祝辞が述べられました。

その後受賞者両博士が学ばれた学校の歌やご希望の曲を千葉大学、宇都宮大学合唱団が合唱、和やかな雰囲気が増すなかで、カオ博士、伊藤博士がそれぞれ謝辞を述べられ、華やかな祝宴も終宴となりました。

## 受賞者の思い出のアルバム

### カオ博士



中国・上海に生まれ、14歳まで過ごしました。右は弟さん。



留学先の英国で知り合った奥さんと1959年に結婚。



現在も教壇に立って講義をしています。



将来の余暇に備え、焼物の腕を磨いています。



愛犬と遊ぶ博士。



次代を担う若者達に、理想や希望を伝えていきたい、と博士。

### 伊藤博士



小学校入学間もない頃の家族写真(本人右端)。3歳に父上を亡くされています。



豪州に3年間留学。1963年にノーベル医学生理学賞を受賞するエックルス教授に師事。同国で長男南さんが生まれました。



研究室の中では何時も怖い顔をしていたようです、と同博士。



平成元年3月東大を退官。最終講義で学生から記念品(小脳に見立てた珊瑚)を贈られる。



平成5年スウェーデンで。釣果はタラです。



平成6年日本学術会議の会長に選出されました。首相官邸で開かれた祝う会で村山首相(当時)と談笑。

## 日本国際賞週間

(財)国際科学技術財団では4月22日(月)から29日(月)までを「日本国際賞週間」とし、授賞式・祝宴のほか、日本学士院訪問や受賞者合同記者会見、記念講演会を開催するなど各種行事を行いました。



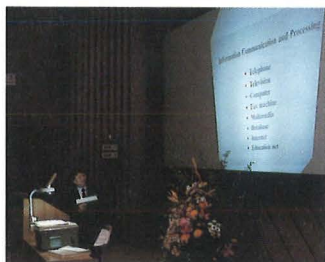
香港経済貿易代表部主催パーティー  
(4月23日)



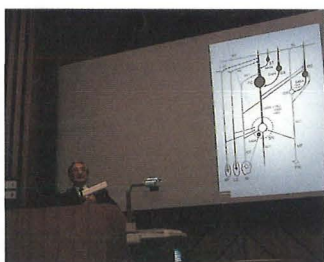
日本プレスセンターでの受賞者合同  
記者会見(4月23日)



日本学士院訪問(4月25日)



日本学術会議講堂におけるカオ博士  
記念講演会(4月25日)



日本学術会議講堂における伊藤博士  
記念講演会(4月25日)



米国大使館主催パーティー  
(4月25日)



学術懇談会(4月27日)



京都の休日(4月28日)

## 1997年(第13回) 日本国際賞審査開始

1997年(第13回)日本国際賞の授賞対象分野は「人工環境のためのシステム技術」と「医学におけるバイオテクノロジー」の2分野です。

現在、当財団に世界各国から受賞候補者の推薦状が多数寄せられています。財団に設置される1997年(第13回)日本国際賞審査委員会審査を経たのち、受賞者の発表は本年12月、授賞式は来年の4月を予定しています。

### 「人工環境のためのシステム技術」

現代の人間社会の活動は、人工物によって形成された人工環境において営まれています。人類の福祉の向上を目指し、この人工環境を持続的に発展させるための人工物の創造と運用において、システム技術は大きな役割を果たしています。

「人工環境のためのシステム技術」は、人工環境の形成過程にかかわる設計工学、生産工学、計測制御工学、ロボティクス、知識工学、計算科学、安全・信頼性工学、標準化・品質工学等、多岐にわたる技術・知識体系を含みます。

1997年の本賞は、人類に有用な人工環境を生み出すために、上記のような技術・知識体系の確立に貢献した業績、あるいは、そのための基礎となる学問・技術分野の進歩への貢献を対象とします。

### 「医学におけるバイオテクノロジー」

近年のバイオテクノロジーを基盤とする医学生物学の飛躍的進展は、特に健康・医療科学技術の分野で、画期的な素晴らしい成果を挙げてきました。これら現代人の英知は、21世紀を迎えるに当たって人類の今後の繁栄に大きく関わってくると考えられます。

1997年の本賞は、分子生物学的技術や臓器移植などを含む広い意味でのバイオテクノロジーの分野において、疾病の解明あるいは予防、診断、治療に革新的な貢献をした優れた業績を対象とします。

## 「やさしい科学技術セミナー」毎月開催

(財)国際科学技術財団では、「やさしい科学技術セミナー」を毎月開催しています。著名な先生を講師としてお招きし、科学のさまざまな分野にわたり、タイムリーなテーマを取り上げてわかりやすくお話しをしていただき、科学技術に関する知識や思想の普及・啓発を図るもので、原則として第4水曜日(千代田区永田町の星陵会館)で開催しています。(入場は無料)

講 師	講演テーマ	開催予定日
芝浦工業大学システム工学部教授 平田 賢	「熱ってなんだろう」 —熱エネルギーの有効利用について考える	6. 26 (水)
産業医科大学学長 小泉 明	「健康をめぐって」	7. 31 (水)
龍谷大学理工学部教授 山口 昌哉	「カオスの新しい意味」	9. 25 (水)
東海大学海洋研究所地震予知研究センター長 上田 誠也	「新しい地球科学と地震予知」	10. 23 (水)
慶應義塾大学政策メディア研究科教授 伊藤 滋	「都市防災と都市計画」	11. 27 (水)
横浜国立大学工学部教授 上原 陽一	「安全の科学」 —危険をどう予測し防ぐか	12. 11 (水)